

第2回「操縦士・整備士の人材確保・活用に関する検討会」プレゼン資料

整備士確保のための取り組みと今後の方向性

2024年3月1日（金）
公益社団法人 日本航空技術協会

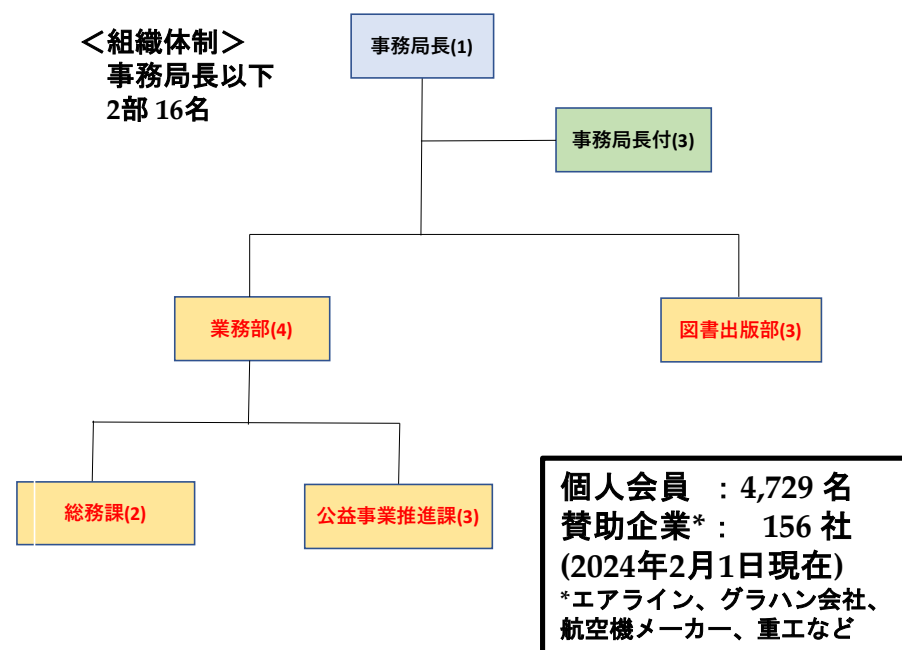


<https://www.jaea.or.jp/>

本協会は、航空の安全確保に資するため、教育・助成・能力開発事業及び助言・提言に関する事業を行い、航空技術の普及啓蒙を図り、もって航空界の学術及び科学技術の振興及び発展に寄与することを目的とする。

【沿革】

- 1927年（昭和2年） 4月 日本航空機関士会として発足
- 1955年（昭和30年） 1月 社団法人日本航空整備協会設立
- 1979年（昭和54年） 7月 社団法人日本航空技術協会に、名称を変更
- 2011年（平成23年） 10月 公益社団法人として内閣府より認定



【主な事業】

- (1) 航空の安全確保に資するための普及啓発事業及び教育・助成事業
- (2) 航空界の活動支援及び能力開発事業
⇒2019年4月の「特定技能」制度発足に伴い、同年9月より
「特定技能評価試験実施機関」として試験を実施
- (3) 国内外への情報発信、調査研究及び関係する助言・提言事業
- (4) 図書の頒布



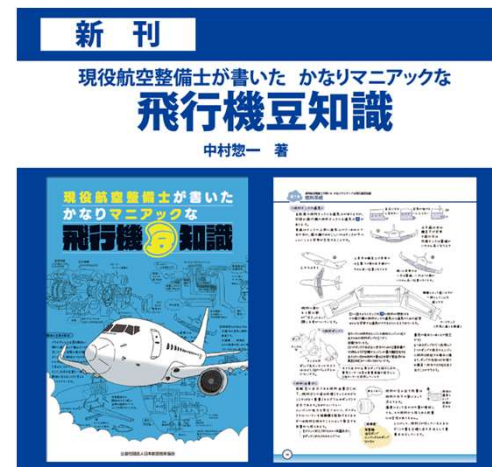
航空教室



講習会



表彰事業



本書は、飛行機のエアコン、安定性制御、エンターテインメント、電源系統、操縦系統、燃料系統、防氷系統、降着装置、慣性基準装置、離陸系統、水系統、補助エンジン、機体構造、エンジンの仕組みや特徴について現役の航空整備士が手書きのイラストを添えて、正確に、でも分かり易く紹介しています。関連する最新機種のシステムの写真も多く掲載しています。

裾野拡大に向けた活動の概要

(1) 航空教室

昨年度は、11月に東京ヘリポート、3月に鹿児島空港で実施した。

今年度は、7月に仙台空港で実施、3月には名古屋で実施する予定。

小中学生を対象に保護者にも参加頂くイベントとし、毎年度2回程度の実施を継続している。

(2) 工業高校の教職員を対象とした空港見学会

令和4年度より開始、今年度が2回目、毎年夏休みに開催している。

(3) 航空技術産業セミナーの開催

2023年11月に初開催、個別ブースでの企業説明と特別講演の2本立てで実施した。

業界を代表する企業を含む14団体が出展、192名の学生が参加、概ね好評であった。

2024年以降も継続開催する計画である。

(4) 無利子貸与型奨学金

令和6年度より開始、募集人数は100名：令和6年度は50名程度となる見通し。

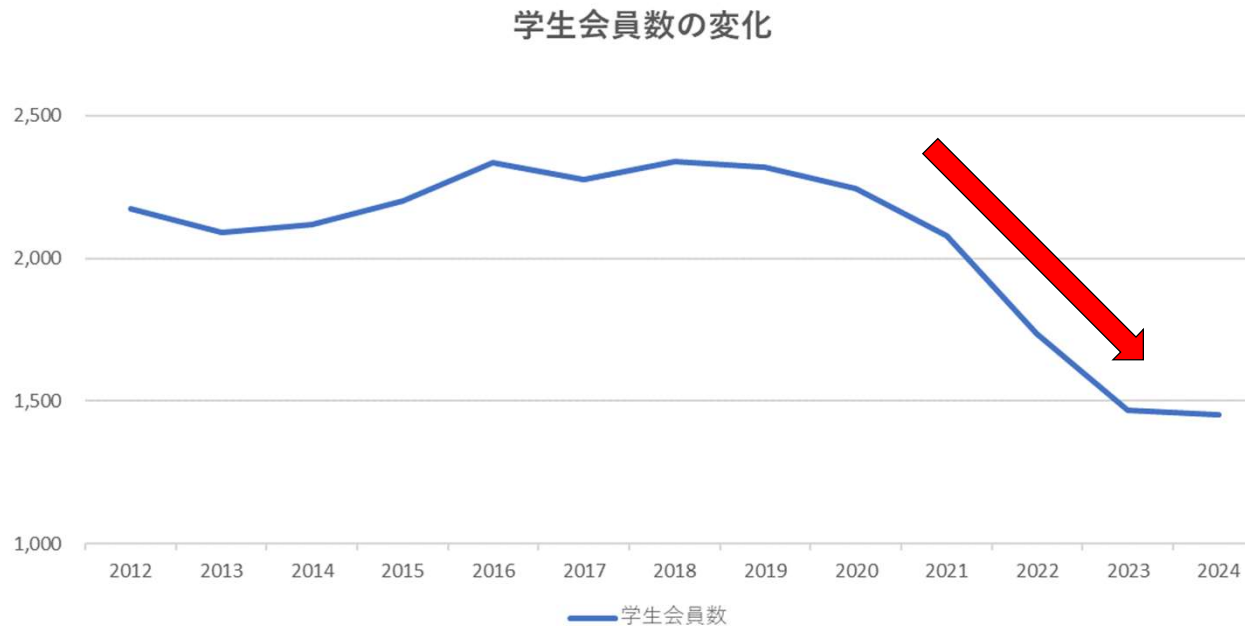
毎年50万円を上限に就業予定年限に応じて貸与する。

(3年制の航空整備学科であれば、50万円×3回=150万円)

大手エアラインからの協力を得て開始したが、その他数社からも制度への参画の申出あり。業界を挙げての取り組みであることを今後もアピールしていきたい。

学生会員数の推移(2012年度～2024年度)

2020年度以降急激に減少したが、全ての年次がコロナ禍以降の入学となる2023年度が底になるのではないかと見込んでいる。但し、増加に転じるにはもう暫く時間がかかると思われる上、元のレベルに戻るかどうかは不透明な状況である。



航空専門学校との連携(1)

1. 教科書（青本、グリーンブック等）の作成・発行
2. 航空従事者試験問題解説の「航空技術」連載
3. 学科試験問題集の作成・発行
4. CBT化に対応した「学科試験能力診断テスト」の提供
5. 航空従事者指定養成施設連絡会へのオブザーブ参加
6. 整備マニュアル英単語ドリル「スマホで航空英単語」の提供



航空専門学校との連携(2)

7. 整備士資格取得者に対する
ライセンスケースの贈呈

8. 技能コンテストの開催

9. 会長による講話

10. 給付型奨学金および無利子貸付型奨学金の運営

11. 卒業生に対する会長賞および記念品の贈呈



外国人受け入れに向けた取り組み

(1) 特定技能1号評価試験（航空機整備）の実績

	第1回	第2回	第3回
実施日時	2019年10月27日（金）	2022年9月24日（土）	2023年9月23日（土）
	10:30～15:00	10:30～14:00	09:30～12:30
試験会場	モンゴル国モンゴル工業技術大学附属モンゴルコーセン技術カレッジ		
応募者数	69名	27名	33名
受験者数	34名	24名	29名
合格者数	8名	5名	4名
合格率	23.50%	20.80%	13.80%
受験者国籍	モンゴル	モンゴル、香港	モンゴル



(2) 特定技能2号評価試験（航空機整備）の実施に向けた準備

2022年4月に最初の特定技能外国人が就業を開始していることから、十分な受験準備期間を確保するため、以下のスケジュールを想定している。（航空局と要調整）

2024年度上期：試験実施要領策定

2024年度下期：トライアル試験の実施

2025年度当初より2号試験を開始

要望および今後の方向性

(1) 学科試験関連（要望）

これまでは出題された問題に解答および解説を付けたものを「学科試験問題集」として発行してきたが、CBT化後は、出題された問題が公表されていないため、問題集の発行が難しくなることが懸念される。学校からも学習教材としての当該問題集の有用性に鑑み、発行を継続して欲しいとの要望を頂いており、継続できるようご配慮をお願いしたい。

(2) 裾野拡大に向けた取り組み（方向性）

各企業・団体で個別に行われてきた説明会や航空教室を航空局のご支援を頂きながら協会が事務局となって統合し、社会に対してより強力に訴求していくことを目指したい。また、2020年度よりATECが実施してきた「将来の航空の発展に向けた人財確保に関する調査・研究」を通じて実現した普通高校を対象としたキャリア教育の一環としての説明会についても、上述に含めて推進していくこととしたい。